

身近な文化財

第一話
文化財とは
なにか？

文化財とは、限られたごく一部のものを指すと考える方も多いかもありません。

国や自治体では文化財の指定制度を設け、歴史、学術、芸術上特に価値の高いものについて保存が図られています。

ただし、指定されていなくても、地域の大切な文化財であることに変わりはありません。

例えば指定されていない古文書も、土地の歴史の証拠です。失われると、そこに記されていた歴史は二度と分からなくなってしまう。

地域の文化財をまとめたものとして保存し、次の世代に引き継ぎ、地域づくりに活用するため、平成31年に「文化財保存活用地域計画」の制度が設けられました。市でもこの計画を策定し、令和3年12月に県内で初めて文化庁の認定を受けました。では地域の文化財とは、具体的にどのようなものでしょう。

「文化財保護法」によれば、文化財とは建物、美術品、古文書、暮らしの道具、祭礼や行事、遺跡、希少な動植物などです。それに加えて近年は、長い人の営みが作り出した文化的景観、食文化や茶道といった生活文化も含まれるようになってい

～身近な文化財の一例～



ます。文化財は、遠いところにある貴重品ではなく、より身近なところにあるのです。今月号から、地域の身近な文化財を取り上げます。家の中や道ばたなど、文化財は思わぬところで見つけることができます。

文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～

景観まちづくり通信 Vol.1

今月号から、白河の景観まちづくりについてシリーズでお知らせします。

本庁舎都市計画課 内2235

「景観」ってなんだろう？



「景観」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？遠くの山並みでしょうか。それとも、住宅やお店が建ち並ぶ街並みでしょうか？

景観は、目に見える眺め（景）とそれを見る人の感じ方（観）によって生み出されるものです。

そして、通勤や通学、買い物、散歩など、普段の生活で目にする景色の裏には、先人が守り築き上げてきたこれまでの歴史や風土、伝統や文化、人々の暮らしや経済活動などが詰め込まれています。

そのような背景にも想いを巡らせながら、少し違った視点でいつもの景色を眺めてみませんか。

今まで気づけなかった新たな発見があるかもしれません。

景観まちづくりになぜ取り組むの？



皆さんが「きれいだなあ」「心地よいなあ」と感じる白河の景観を思い浮かべてみてください。

「きれい」「心地よい」と感じる良好な景観は、私たちの生活に潤いと安らぎを与えるとともに、白河を訪れる方へのおもてなしにもつながります。

景観まちづくりは、大がかりな整備だけでなく、草花の手入れや清掃活動など、身近な取り組みがとても大切です。

白河の良好な景観を守り、新たな魅力をつくり、育てながら、先人から受け継いだ景観のバトンを次の世代につなぐため、市民や事業者の皆さんと行政が協力し、景観まちづくりに取り組みましょう。

お知らせ

ラウンジ

じやらん

シリーズ

子育て

保健

くらしの情報館

ゼロカーボン

高齢者サロン

休日当番医・無料相談ほか

市長の手控え帖